

牧場でのふれあい体験支援体制確立を目指して！！

平成18年度 地域畜産ふれあい体験交流推進事業報告書



「第3回夏休み親子で家畜とのふれあい・体験ツアー」  
平成18年8月22日 美祢市「畜産試験場」

「親子でアイデア牛乳・乳製品料理にチャレンジ」(牛乳鍋)

平成19年1月27日  
防府市「牟礼福祉センター」



平成19年3月

やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会

社団法人 山口県畜産振興協会

## はじめに

社団法人山口県畜産振興協会は、畜産農家の経営支援、家畜の改良・衛生、価経営格安定対策などを行政と連携して行う、主に生産者を支援する団体である。

しかしながら、平成 17 年度に(社)中央畜産会の「地域畜産ふれあい体験交流推進事業」に取組み、生産者や関係機関の他、教育関係者や消費者も含めた委員からなる「やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会」を設置し、協議会主催のふれあい体験や畜産物加工調理体験教室実施を踏まえて、牧場でのふれあい体験を広く可能にするための課題や支援体制などについて、協議を重ねた。

今年度は、昨年の報告書に寄稿を頂いた周南市福川小学校 藤井幸司教諭を講師として、学校の先生対象の研修会開催をはじめ、夏休み期間に畜産試験場と周南市でふれあい体験を2回、9月と11月には、個人の牧場でのふれあい体験を開催。平成19年1月には、牛乳を使った料理教室、2月には牛肉のテイスティング教室を開催した。体験や料理教室では、参加者全てにアンケートを行ったので、その結果も併せて参考にしていただきたい。

また、協議会主催以外のふれあい体験の場もいくつか取材した。現地での活動の様子や課題、今後の事務局の思い等を整理したので参考にしていただきたい。

さらに、学校の先生対象の研修会にも参加してもらった、「食と緑の県民フォーラム」第4調査グループの高橋肇氏(山口大学農学部教授)から、小学校と牧場の連携による学校給食残渣を使ったたい肥づくりプログラムの取組みについて紹介を頂いた。ここでは、牧場が地域循環型社会に貢献し、小学校の総合学習にも大きな成果をあげたことがまとめられている。関係者が支援することで、牧場は環境学習の場にもなることを知っていただければ幸いである。

平成19年3月

やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会  
社団法人 山口県畜産振興協会

## 目 次

1. やまぐち畜産ふれあい体験推進協議会の協議概要 P1～5
2. 牧場でのふれあい体験研修及び畜産物加工調理体験教室の概要 P6～25
3. ふれあい体験の現地取材 P26～32
4. 特別寄稿「池田牧場と防府市立牟礼南小学校との連携による  
学校給食の残渣を使ったたい肥作りプログラムの実施」  
山口大学農学部 高橋 肇 教授 P33～36

### <お知らせ>

やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会では、ふれあい牧場や協議会の活動、報告書などの情報を、山口県畜産振興協会が管理するホームページ「やまぐち畜産ひろば」(アドレス：<http://yamaguchi.lin.go.jp/>)で紹介しています。(「やまぐち畜産ひろば」で検索できます。)

トップページから緑の文字で紹介してあるコーナーから「ふれあい体験協議会」(<http://yamaguchi.lin.go.jp/fureai/index.html>)をクリックしてください。

## 平成18年度 第1回 やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会

1.開催日時 平成18年7月6日(木) 10:00～13:00

2.開催場所 県庁農林水産部2号会議室

3.出席者

◇ 協議会委員 18名(21人中3名欠席)

◇ 畜産振興協会1名

4.内容

協議会委員の自己紹介の後、協議会の設置要領や事業概要、全国の取り組みを紹介。昨年度の取り組み結果と本年度の活動内容について協議した。

[内容]

あいさつ

・ 畜産振興協会 案野専務理事  
議 事

(1) 協議会設置要領及び事業概要、各県(三重、北海道)の事例

(2) 昨年度の活動内容について

昨年度の事業内容を説明。

畜産体験交流会の開催(1回)

畜産物加工料理体験教室(2回)

牧場アンケート結果

協議会作成資料(畜舎に入る前の確認事項、肉牛について知ろうポスター、報告書

(3) 今年度の活動内容について

本年度の事業案を説明。

ふれあい体験研修会(3回)畜産試験場、周南市との共催、ふるさと牧場

畜産物加工調理体験教室(2回)牛乳料理、牛肉料理

サポーター継続募集

学校関係者へのPR

酪農ポスター、報告書作成

<消費者委員>

・ 体験参加費が安すぎる。参加するほうにありがたみが無くなる。

<生産者委員>

・ これから牧場で開催する立場からも安い。これが基準になる可能性がある。料金をとればそれだけ責任も生じるがそれが大事。

<生産者委員>

・ ルーラル引き受けでは一人1500円頂いた。

<生産者委員>

・ 教育ファームでも毎回議論になり結論はでない。奉仕の立場と商売の立場がある。ヨーロッパでは公共牧場、観光牧場、生産現場と区別され料金も異なる。

<消費者委員>

・ 無料ではご馳走になったことになり、お客と同じ。それでは言いたい事もいえない。体験費用に補助があるのだから、参加者にそのことを説明することが必要。納税する立場

からもその方が納得する。

**<生産者団体委員>**

- ・ 酪農乳業協会も補助事業で料理教室を開催するが、材料代だけは頂く。

**<生産者委員>**

- ・ 周南市では全体の特産品を紹介する施設を作った。そこでウイナー加工をやっている。参加費は材料代と人件費。人件費分は参加者の人数により負担が異なる。

**<事務局>**

- ・ 体験などの参加者には、補助事業であることを明確にする。将来的には価格設定も必要であると考えている。

**[体験内容について]**

**<生産者委員>**

- ・ 牛乳飲み比べは実は重要。牛肉でも可能。レストランで同じ牛でも部位により味が違う、さらに焼き方によっても違うことを紹介したことがある。協議会の趣旨からもこのような視点で畜産物を紹介することが大事。

**<消費者委員>**

- ・ 消費者は表示にまどわされる。素材の味はほとんど区別できないと思う。それを知ってもらうことも食育。

**<生産者団体委員>**

- ・ 牛乳飲み比べをしたことがある。濃厚牛乳と低脂肪牛乳でも当たらない。

**<生産者委員>**

- ・ 成分無調整と濃厚、低脂肪を比べたことがあるが、確かに当たらない。結局消費者は紙パックで選んでいるのかと思う。

**<事務局>**

- ・ 食材を知ることが食育になることを理解。今年度の料理教室にも活かす。

**[体験支援]**

**<関係機関委員>**

- ・ 農林事務所畜産部は牧場に学校が来ることを知らない。事前に相談があれば支援は可能。

**<生産者委員>**

- ・ 学校から直接依頼がある。研修や視察も多い。農林事務所にも相談したい。

**<畜産試験場委員>**

- ・ 畜産試験場にもいろいろなケースがある。現状個人でこられても対応できない。

**<教育関係委員>**

- ・ 学校現場には毎日多くの文書が届くので、目立つパンフレットなどが効果的、詳細はHPのスタイルがベスト。先生も夏休みの研修であれば出やすいかもしれない。食育の要素もあり、希望者はあると思う。

**<事務局>**

- ・ HPの中に、牧場へ依頼するルールを作りたい。牧場へも農林事務所へ相談することをPRし、学校へも紹介したい。

## 平成18年度 第2回 やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会

1.開催日時 平成19年3月1日(木) 10:00～12:30

2.開催場所 県庁農林水産部2号会議室

3.出席者

◇ 協議会委員 15名(21人中6名欠席)

◇ 畜産振興協会 2名

4.内容

### [概要]

本協議会の本年度第2回目の会議を開催。

今年度実施した行事の活動報告を行うとともに、今年度末の報告や来年度事業の方向性について議論され、活発な意見交換が行われた。

### [内容]

#### 開会あいさつ

案野専務理事((社)山口県畜産振興協会)

消費者を意識した取り組みを実施。今年度取り組みについて多方面からの意見を出してほしい。これからも必要な取り組みであり継続的に支援。

藤井会長

昨日まで熊本で乳製品加工の研修。九州では生産調整の声を聞く。牛乳廃棄については、地球規模で考えれば矛盾。フランスでは1980年からふれあい体験を実践。県の若手酪農家交流会では消費低迷に自分たちが何かしたいという声も上がっている。消費者の声を聞いて経営をすることを自覚している。協議会が先導的な役割をしたい。

#### 議事

事務局が資料により説明、委員との意見交換を行った

(1)畜産体験交流研修会・畜産物加工調理教室の開催結果について。

- ・ 8月10日 学校の先生向け研修。(畜産試験場)
- ・ 8月22日 親子で家畜とのふれあい体験。(畜産試験場、県酪乳業工場)
- ・ 8月25日 親子で家畜とのふれあい体験。(周南市)
- ・ 9月6日 親子で家畜とのふれあい体験。(山口市 本廣牧場)
- ・ 11月18日親子で家畜とのふれあい体験。(防府市 ふるさと牧場)
- ・ 1月27日 親子で牛乳・乳製品料理にチャレンジ。(防府市 牟礼福祉センター)
- ・ 2月17日 親子で牛肉のテイスティング。(山陽小野田市 きらら交流館)

(2)現地取材

- ・ 7月10日 藤井牧場(酪農・周南市)が和田中学校へ出前講座
- ・ 7月7日 田村牧場(酪農・下関市)へ関西小学校親子視察
- ・ 7月31日 原田牧場(酪農・下関市)へ麦川小学校全児童視察
- ・ 11月14日隅牧場(肉用牛・岩国市)へ美川小学校1年生体験
- ・ 11月16日池田牧場(酪農・防府市)へ右田小学校2年生が視察

< 畜産試験場委員 >

- ・ 畜産試験場でもいろいろ試みている。アンケートから現場で当たり前のことが体験として印象に残ることを理解。家畜に触れさせてなんでもやってみることが重要と理解。

#### <生産者委員>

- ・ 牛乳料理にグループで講師をした。牛乳からつくるチーズを広めたい。グループ活動からできる。近所の小学校とも継続的にたい肥づくりを支援。他の小学校も視察に来る。また、農業大学で学生にこれらの取り組みについて紹介した。

#### <関係機関委員>

- ・ 親子での体験は良い。農林事務所でも企画に小学校から依頼があり、牧場視察をサポートした。学校との連携が必須であることを実感する。

#### <栄養士委員>

- ・ 学校ではふれあい体験は重視。しかし、参加しない親、無関心の親が問題。給食で食育を行うと小学生では良く食べるようになるが、中学生では給食を残す割合が増える。特に都市部の中学生では顕著。家畜にふれあうことは心の発達にも重要と考える。

#### <生産者委員>

- ・ 小学校1年生の総合学習を受け入れた時、牛乳を飲めない子どもが、半年後には飲めるようになった例がある。

#### <生産者委員>

- ・ 牛肉調理教室では牛肉の入り口を教えた。個体識別情報も実際に見せたが、反応が無いことに驚き。あのBSE騒動は何だったのか。大手牛丼チェーン店で輸入牛を使った牛丼再開ですぐ売り切れたことを報道されていたのを見ても、消費者の心理は読めない。牧場経営においては、安全は確保できるが、安心は信頼関係が必要と感じる。

#### <教育委員>

- ・ ふれあい体験の重要性は教育庁も認識。体験活動に予算もついている。しかし、教育の現場は授業時間が不足している。希望する教師は多いと思うが、研修旅費やバス代も確保できない。体験指定校との連携は可能。夏休み体験は社会教育課の範疇になるが、本当にふれあい体験が必要な子どもが参加してこないことは課題。

#### <生産者委員>

- ・ 周南市体験に参加。養豚の場合体験は難しいので、加工体験の場を提供。子供会行事などで年々利用者は増えている。

#### <流通団体委員>

- ・ 牛肉テイस्टィングに参加。生野菜との組み合わせは良かった。トレサ体制はできており安心に繋がっていると思っていたが、PR不足を認識。

#### <生産者団体委員>

- ・ 酪農乳業協会でも学校牛乳関係の事業を行っている。先生によって対応が異なり、牧場視察でも予め質問を用意させてくる学校もある。年間10校程度が取り組む。衛生面での心配は常に感じている。十分な体制でサポートできていない。

#### <消費者委員>

- ・ 大人の立場から、体験だけで終わってよいのか。お客扱いなら、よかったという感想で終わる。参加料を支払うことで参加者も本気になる。体験のねらいにあったプログラム作りと工夫が必要。トレサに関心はあるがインターネットで確認したことは無い。

消費者心理としては、根拠の無い不安の影響は大きい。正しい情報を伝えることは基本。

<行政委員>

- ・ アンケート結果から興味あるイベントと認識。出前講座などもチャレンジしてほしい。

<行政委員>

- ・ 5回参加。毎年同じメニューを継続することも重要。

### (3) 来年度実施予定について。

事務局から来年度構想を説明。

<ふれあい体験>

- ・ 畜産試験場など公共牧場で多数を集めた体験。(畜産試験場での搾乳は難しい)
- ・ ふるさと牧場;親子で宿泊型の体験予定
- ・ 学校;希望する学校に、牛の話し 搾乳体験 牛乳料理をセットした体験学習を提案、実践。

<畜産物加工調理教室>

- ・ 児童館対象の牛乳からつくるお菓子など
- ・ 手作りウインナー
- ・ 牛肉テイस्टینگ

<サポーター>

- ・ 県若手職員を中心に、サポート経験者を増やす。

<生産者委員>

- ・ 受入れ時の保険について手軽に加入できるものがないか。

<事務局>

- ・ 事業では農協のイベント共済を利用。PRできるものであれば紹介する。

### (4) その他

<牛乳を飲むなという本について>

事務局から牛乳を飲むべきではないという本がベストセラーになっていることを紹介し、大学関係委員からそれを否定する新聞記事を紹介。

<教育委員>

- ・ このような本は、売れることが目的。どんなことでも話題になればよいのであろう。

<消費者委員>

- ・ 日本人は他人が言うことを選択する。自立していない消費者が多い。生産者側がしっかり伝えることが重要。一つのものに対する意見はいろいろあり、全員が同じことはありえない。

<生産者委員>

- ・ ジャーナリストの中には確かなデータを活用しても、きちんと理解し、伝えているかといえそうでもないケースがある。



## 牧場を活用した体験学習・総合学習にかかる説明会 開催結果

1. 開催日時 平成 18 年 8 月 10 日(木) 10:00 ~ 14:00

2. 開催場所 畜産試験場 会議室 場内施設(酪農、放牧)

### 3. 参加者

◇ 参加者 一般 9 名(先生 2 名、大学 2 名、酪農家 1 名、その他 4 名)

◇ 関係者 講師 周南市立福川小学校 藤井教諭、協議会委員 6 名、事務局 1 名

◇ その他 サホ-タ- 1 名、畜産試験場 3 名、団体 1 名、

### 4. 内容

**事例紹介** 「地域と連携して子どもの温かい心を育てる」

周南市立和田小学校での酪農体験学習の紹介

- 小学校 1 年生全員が半年間牧場へ通い、命の体験学習取り組み。
- 各自担当の牛の世話、牧草収穫、搾乳体験、出産立会い。扱いが難しい牛に接することができ、お世話ができるようになる過程での子どもの変化。
- 受け入れた藤井牧場の変化。藤井教諭の熱意と配慮。

**その他事例** 協議会取り組み説明。畜産試験場取り組み説明。

畜試も牛セラピーを実践。

### 意見交換

- 牧場受入れ時の安全確保を懸念。家畜へ接することの効果は大。
  - 池田牧場の資源循環型酪農と食育の取り組みには「食と緑県民フォーラム」が支援。
  - 先生の意識 目的を持って牧場へ。牧場との事前打ち合わせ必要性。
- 学校の意識 興味はあってもこのような研修会参加も難。学校組織の難しさ。

### 5. 結果・課題

評価; 牧場での体験学習の効果や意義について、総合学習に畜産現場を活かした事例であり、その取り組み過程から、小学生を長期間牧場体験させるのに必須な手順を独自に実践している。参加者は、牧場でのふれあい体験に興味ある先生や酪農家、実際に活動をしているフォーラム関係者など。

課題; 学校の先生参加は少数。学校現場の先生多忙。研修会のタイミングや時期検討。研修のPR不足。



藤井教諭



畜産試験場内視察(放牧管理グループ)

### 第3回夏休み、親子で家畜とのふれあい体験ツアー 開催結果

1. 開催日時 平成 18 年 8 月 22 日(火) 9:30 ~ 15:30
2. 開催場所 畜産試験場 やまぐち県酪乳業本社工場
3. 参加者
  - ◇ 参加者 28組75名(4組11名は申込みをしたが、当日体調不良等により欠席)
  - ◇ 関係者 講師2名、酪農家1名、協議会委員4名、事務局5名
  - ◇ その他 サポーター4名、畜産試験場16名(内5名研修生)、酪農団体2名、

#### 4. 内容

**酪農体験学習** 参加者多数のため、2班に分かれて体験

- 搾乳体験; NPO法人きららの里講師スタッフが牛柵設置、事前説明、搾乳体験誘導を実践。参加した酪農家も搾乳指導。一人が後搾りをしつつ酪農の仕事について説明。
- ロボット搾乳見学; 畜産試験場説明
- 牛の身体測定; 協会職員が乳牛の体高、胸囲測定。子供達に胸囲の大きさ、牛の体重を実感させる。
- 牛の音を聞く; ルーメンの音、心音を聴診器で聞かせる。女性獣医指導。
- ふれあいミニ牧場; イベント利用後のひよこ、子豚。大型トラクターやロールベール。
- 県酪乳業工場見学; バス2台で移動。ビデオ鑑賞と工場見学。4種の牛乳試飲。質問。

#### 5. 結果・課題

評価; 搾乳体験と工場見学が人気。ほとんどが初参加であり、概ね好評。NPO講師は搾乳準備、手順、説明など子どもにもわかりやすく実践。ふれあい体験に興味のある酪農家にも参加してもらい意識向上。牛の測定で、体重や胸囲などの数値を実感。

課題; 未就学児の同伴については懸念の意見あり。



搾乳体験の様子



乳牛へのえさやり体験



酪農家へ質問



牛乳試飲クイズ

## 夏休み、親子で家畜とのふれあい体験（周南市） 開催結果

- 1.開催日時 平成 18 年 8 月 25 日(金) 9:30～15:00
- 2.開催場所 周南市鹿野 せせらぎ豊鹿里(ゆかり)パーク
- 3.参加者
  - ◇ 参加者 13組36名(1組3名は申込みをしたが、当日体調不良等により欠席)
  - ◇ 関係者 講師2名、加工指導1名、酪農家1名、協議会委員3名、事務局4名
  - ◇ その他 サポーター1名、周南市10名、生改連3名、県2名、

### 4.内容

#### 酪農体験学習

- バター作り体験;藤井牧場作成資料から市担当者が実演、体験。
- 搾乳体験;NPO法人きららの里講師スタッフが事前説明、搾乳体験誘導を实践。一人が後搾りをしつつ酪農の仕事について説明。
- ウィナー加工体験;鹿野ファーム指導員がミンチ肉段階、腸詰、絞り、スモーク、午後オイルを指導。
- 昼食;長野山生活改善実行グループが鹿野ファームの肉と地域の野菜、こんにゃくを使った材料であることを紹介しながら昼食。

### 5.結果・課題

評価・課題;周南市との共催で実施。牛は畜産試験場から輸送。バター作り、搾乳体験、ウィナーが人気。ウィナー体験では、材料や工程などについての説明がやや不足?酪農の少ない周南市では、牛を連れていく搾乳体験は貴重。受け入れの体制作りが必要。



バター作り体験



搾乳体験前の乳搾り指導



ウィナー作りの実演



後搾りをしながら牛のお話

親子で家畜とのふれあい体験（本廣牧場） 開催結果

1. 開催日時 平成 18 年 9 月 6 日(水) 8:40 ~ 12:00
2. 開催場所 山口市銚銭司 本廣牧場、県酪乳業工場
3. 参加者
  - ◇ 参加者 山口市立銚銭司小学校2年生14名、保護者12名、未就学児3名
  - ◇ 関係者 小学校関係者2名、協議会委員1名、農林事務所1名、事務局1名
4. 内容

**酪農体験学習**

- 搾乳見学、酪農ヘルパーの搾乳の様子を見学。
- 飼料給与；自家生産の中型ロールベールの中身説明と飼料給与実演。
- バスの中で、牛乳ができるまでのビデオ鑑賞。本廣牧場の取り組みについて、説明。
- 乳業工場見学。3種類の牛乳試飲。

5. 結果・課題

評価；酪農家からの依頼により実施。小学校PTA活動として実施(地域の仕事を知る)。酪農という仕事を体験と第三者(協議会)が説明することにより、理解促進。

課題；2年生14名全員の体験であるが、3名は臭いで牛舎に入れず、工場でも1名牛乳が飲めない子がいた(ジュースで対応)。

	牛舎内部		サイレージの取り出し
	牛舎内体験		飼料給与説明
	搾乳室前		乳業工場見学

## 親子で家畜とのふれあい体験ツアー（第2回里山で牛とのふれあい体験）開催結果

1. 開催日時 平成 18 年 11 月 18 日(土) 10:00～15:00
2. 開催場所 ふるさと牧場(防府市久兼 410)・・・肉用牛繁殖、水稻、林業経営
3. 参加者
  - ◇ 参加者 11 組 29 名(1 組 2 名が参加申込みをしたが、体調不良により当日欠席)
  - ◇ 関係者 牧場 2 名、講師 1 名(NPO 法人 きららの里)、協議会委員 3 名、事務局 2 名
  - ◇ サポーター 5 名(一般 3 名、県職員 2 名)、中央協議会 5 名

### 4. 内容

#### 牧場体験

- 牛のえさやり;子牛と繁殖牛のえさを説明後、給与。えさの種類、資源利用などを理解。
- 和牛を極める;和牛登録の基礎として、協会職員指導により体重、胸囲測定をサポーターが実演。参加者には鼻紋採取体験と心音を聞く体験。

#### 竹加工体験

- NPO 法人きららの里指導により、カマドづくり、竹炊飯、竹の湯のみ、竹の箸作りにチャレンジ。地元のこんにゃく玉から作ったこんにゃく試食。

#### 昼食

- ふるさと牧場棚田米、講師持参無農薬野菜、県産牛肉、豚汁用意。

#### 里山散策

- ふるさと牧場代表山本氏の話。
- 林道と牛道を散策。牛と遭遇。

### 5. 結果・課題

評価;参加者の6割は牧場での体験は初めてであり、畜産以外の竹炊飯、竹加工も人気。野外調理による食育体験の場としての位置づけも高く評価。

課題;家畜ふれあいと野外調理体験の組み合わせは時間不足。今後は、食材を提供し、家族単位で自由に調理をし、体験やお話を組み合わせる宿泊型プログラムを検討。

	牛に与える飼料の説明		子牛を使つての体測
	鼻紋採取体験		竹を使った食器作り体験

## 親子でアイデア牛乳・乳製品料理へチャレンジ（牛乳鍋）開催結果

1. 開催日時 平成 19 年 1 月 27 日(土) 10:00 ~ 14:30
2. 開催場所 牟礼福祉センター(防府市牟礼)
3. 参加者
  - 参加 9組24名(1組3名は申込みをしたが急遽欠席)
  - スタッフ 講師6名(防府市生活改善実行グループ・池田委員)、関係機関 2名、協議会2名、事務局2名

### 4. 内容

**調理体験** レシピは、グループが事前に試作し、食材を協議。市販牛乳と池田牧場の初乳、池田牧場たい肥利用グループの米、野菜を中心に「牛乳鍋」(5品)を4グループに分かれてチャレンジ。炊き込みご飯は池田講師がまとめて作る。それ以外は、カッターチーズづくりから、レシピに沿って調理。途中藤井会長製造のチーズも試食・紹介。

**試食・意見交換** 酪農家のお話と質疑応答。たい肥と野菜、生ゴミの自然循環説明。初乳の反響大。牛乳を飲むと病気になる?という本についての意見(藤井さん、池田さん両家族とも4世代で元気)。

### 5. 結果・課題

- グループの牛乳鍋は、国文祭、駅前商店街(鍋1)など地域活動のほか、テレビでも紹介食品としての牛乳消費拡大。カッターチーズ入り鍋や炊き込みご飯の味は好評。
- 酪農家や食材提供者が講師となり、参加者と交流(3世代交流)。
- 参加者募集については、時期が悪く、各地で料理教室をやっているなど、難しい。会場は牟礼南小学校児童館にもなっているので、児童館イベントとの共催も検討。



4班に分かれて調理



り牛乳からカッターチーズ作り



五品完成



試食

## 親子でチャレンジ・牛肉のテイスティングと美味しい食べ方 開催結果

1. 開催日時 平成 19 年 2 月 17 日(土) 10:00 ~ 14:30
2. 開催場所 きらら交流館(山陽小野田市焼野)
3. 参加者
  - 参加 9組24名(1組2名は申込みをしたが急遽欠席)
  - スタッフ 講師1名(梶岡委員)、肉用牛農家2名、野菜農家1名、関係機関 2名、協議会2名、事務局3名

### 4. 内容

**調理体験** ご飯と付け合せ野菜の準備。葉野菜紹介。

**肉用牛の話** 参加者へ肉用牛クイズ。答えを肉用牛繁殖農家2名と梶岡委員が説明。

**試食・意見交換** 梶岡講師が4品種の肉(肩ロース、5mm、去勢)紹介、塩(岩塩)による味付けと焼き方(いじらず、やわらかく)を紹介。梶岡牧場のたい肥を使った葉野菜サラダ好評。牛乳でつくる簡単デザートも紹介、試食。

### 5. 結果・課題

- 焼肉はたれをつけて、野菜も焼いて・・・という概念を払拭。塩で食べることにより、肉の違いを確認。個体識別情報確認も理解。農家との交流も好評。有機野菜との連携も重要。
- 生産者でありレストランも知る講師は、参加者にも説得力あり。
- 資料による肉用牛の話では、子どもがあきる。メディア(スライド、短時間ビデオ)の併用が印象に残る？



素材の説明



肉用牛農家のお話



4品種の牛肉と有機野菜



テイスティングを確認

### <平成18年度の活動から>

ふれあい事業取り組み2年目となる平成18年度は、将来のふれあい体験支援体制整備の模索期間と位置づけ、様々なパターンの活動を行った。

学校の先生向けの研修は、市町教育委員会を通じて、全学校に案内をしたが、実際に参加した先生は数名であった。協議会でも指摘されたように、学校の先生の業務多忙の現実と夏休みとはいえ研修への出張の難しさを感じた。しかし、藤井先生の取り組み内容は、今の学校現場には参考になると考えており、毎年やり方を考慮して呼びかけてみたい。

ふれあい体験については、いわゆる公共牧場である畜産試験場での搾乳体験と県酪乳業工場見学のセット。畜産農家の減少している周南市と共催して特産品交流施設「せせらぎ豊鹿里(ゆかり)パーク」を会場に搾乳体験と地元鹿野ファームの畜産物加工体験。個人の酪農経営からの依頼により、地元小学校のPTA活動の一環としてふれあい体験。ふれあい交流施設にも登録してある「ふるさと牧場」での里山を使ってのふれあい体験。というそれぞれタイプの異なる取り組みを実施した。牧場や地域の特色を活かした体験のノウハウを蓄積するとともに、関係団体や学校からの依頼に対して、内容のあるふれあい体験メニューを提案できる準備ができつつあると感じている。

畜産物加工調理教室については、これまでの畜産振興協会の業務からは異質のものであるが、牛乳、牛肉について、料理の専門家による教室ではなく、生産者自らが講師となり、また、意見交換に参加してもらうことを基本とした。生産者自らが講師となったのは、協議会委員でもある生産者が、その技量があったからであるが、今後も、生産者が一緒に料理教室に参加するスタイルは継続したい。また、今回は、両教室とも講師をした畜産農家のたい肥を使った米や野菜を作る耕種農家の方にも参加していただいた。料理に使った材料について、多方面から直接説明ができることは、参加者にとっても、良い機会になったと感じている。

アンケートについては、小学生以上の参加者全員に記入をお願いした。紙面の関係で、次ページ以降に抜粋した項目のみにしているが、どのような年齢の方が参加され、どのような感想をもったのかを参考にさせていただきたい。

#### 活動でお世話になった場所の紹介

< 公的機関 >	< 個人 >
山口県畜産試験場 〒759-2221 美祢市伊佐町河原 1200 TEL0837-52-0258 FAX0837-52-4832	ふるさと牧場 〒747-0102 防府市久兼 410 TEL0835-36-0337
せせらぎ豊鹿里(ゆかり)パーク 〒745-0302 周南市大字鹿野上字湯見 TEL0834-68-1234 FAX0834-68-2555	
防府市牟礼福祉センター 〒747-0014 防府市大字江泊 1051-3	
山陽小野田市「きらら交流館」 〒756-0877 山陽小野田市大字小野田字介 永 584-9 焼野海岸 TEL0836-88-0200 FAX0836-89-1390	



ふれあい体験交流会集計（8月22日一般消費者等成人）

2.性別と年齢		人数	%
男		5	15.6%
女		27	84.4%
計		32	

		人数	%
30代	男	2	6.3%
	女	19	59.4%
40代	男	3	9.4%
	女	8	25.0%
計		32	

3.今日は何がよかったですか。		人数	%
搾乳体験		29	33.3%
ロボット搾乳		9	10.3%
牛の身体測定		2	2.3%
牛の音		2	2.3%
家畜とのふれあい		17	19.5%
牛乳工場見学		22	25.3%
牛乳試飲クイズ		5	5.7%
その他		1	1.1%
計		87	

4.このような交流会への参加は初めてですか。		人数	%
初めて		29	90.6%
2回目		1	3.1%
3回以上		2	6.3%
計		32	

5.今日の交流会に参加されていかがでしたか。		人数	%
来て良かった		22	31.4%
子供が喜んだ		16	22.9%
予想以上に清潔だった		6	8.6%
楽しかった		9	12.9%
また来たい		14	20.0%
疲れた		1	1.4%
もう来ない		0	0.0%
その他(具体的に )			
・生き物を相手に仕事することの大変さを感じた		2	2.9%
・学校用牛乳ピンを詳細に説明してもらい、子どもも理解。			
計		70	

9.全体の感想		人数	%
・楽しかった。		7	
・体験できる内容が多くてよかった。		7	
・工場見学で食品の製造過程見られて良かった。		6	
・子供が楽しんでいた。		5	
・子供と一緒に活動できてよかった。		3	
・夏休みの思い出になった。		3	
・参加者を小学生以上(説明が聴けることが条件)で募集したほうが良い。		3	
・また参加したい。		3	
・家畜とのふれあいが楽しかった。		3	
・牛は汚いというイメージがあったが、意外に清潔だった。		1	
・牛の世話をしてみたい。		1	
・搾乳体験の時間をもっと長くしてほしい。		1	
・畜産試験場の体験のみでもよかった。		1	
・酪農家の苦労を実感した。		1	
・食育についてもっと子供に教えたい。		1	
・牛乳が今までより好きになった。		1	
・畜産試験場内を見ることができてよかった。		1	
・全体写真もあればよかった。		1	
・料金を少しあげてもよいのでは？		1	
・テント(木陰)があつてよかった。		1	
・バス移動があつてよかった。		1	
・スタッフの皆さんありがとう。		11	
・スタッフの対応がよかった。		2	

ふれあい体験交流会 (8月22日児童生徒等子供向け)

1. 学年 年齢( )2. 男 女		人数	%
小1	男 年齢(6~7)	6	15.8%
	女 年齢(6~7)	4	10.5%
小2	男 年齢(7~8)	2	5.3%
	女 年齢(7~8)	1	2.6%
小3	男 年齢(8~9)	2	5.3%
	女 年齢(8~9)	5	13.2%
小4	男 年齢(9~10)	5	13.2%
	女 年齢(9~10)	3	7.9%
小5	男 年齢(10~11)	4	10.5%
小6	男 年齢(11~12)	1	2.6%
	女 年齢(11~12)	4	10.5%
中2	女 年齢(13~14)	1	2.6%
計		38	
2. 今日は何が良かったですか。		人数	%
	搾乳体験	35	31.5%
	ロボット搾乳	6	5.4%
	牛の身体測定	4	3.6%
	牛の音	7	6.3%
	家畜とのふれあい	37	33.3%
	牛乳工場見学	16	14.4%
	牛乳試飲クイズ	4	3.6%
	その他	2	1.8%
計		111	
	その他の内訳		
	ブルドーザーに乗った。	1	
	インタビューを受けた。	1	
3. 動物ふれあい体験をした感想をお聞きます。(3つまで)		人数	%
	初めて動物に触った	20	17.9%
	臭かった	9	8.0%
	汚かった	1	0.9%
	温かった	24	21.4%
	優しかった	6	5.4%
	気持ち良さそうにしていた	6	5.4%
	動物の気持ちが分かるようだった	7	6.3%
	またしてみたい	24	21.4%
	「いのち」の大切さを感じた	6	5.4%
	動物も人間も同じだと思った	6	5.4%
	その他	3	2.7%
計		112	
	その他の内訳		
	楽しかった	1	
	ふんわりしていた	1	
	かわいかった	1	
5. 今日の交流会に参加された感想をお聞きます。		人数	%
	来て良かった	23	36.5%
	予想以上に良かった	9	14.3%
	楽しかった	12	19.0%
	また来たい	16	25.4%
	期待はずれだった	0	0.0%
	疲れた	1	1.6%
	もう来たくない	0	0.0%
	その他( )	2	3.2%
計		63	
	その他の内訳		
	工場がきれいだった	1	
	普通だった	1	
8. こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)			
	・牛の世話	15	
	・牛に乗る	6	
	・動物とのふれあいの時間をもっと長くして欲しい	5	
	・搾乳の時間がもっと長ければよかった	3	
	・搾りたての牛乳を飲む	3	
	・自由時間がほしかった	2	
	・クッキング(チーズ・バター作り)	2	
	・牛の出産を見たい	1	
	・牛の臭さを調べる	1	
	・牛が人になつくのか知りたい	1	
	・ヤギをさわる	1	
	・記念品を作る	1	
	・ジュースの果汁%当て	1	
	・プリンを食べ比べ	1	
	・乗馬	1	
	・レクリエーション(ゲーム)	1	
9. 全体の感想			
	・楽しかった	15	
	・また来たい	14	
	・牛などの動物に触れられてよかった	6	
	・動物が可愛かった	6	
	・牛乳・肉が食卓に届くまでの仕組みが分かってよかった	5	
	・搾乳体験がよかった	3	
	・牛乳がおいしかった	3	
	・動物の生活を学べてよかった	3	
	・また搾乳をしてみたい	2	
	・牛が温かった	2	
	・大満足した	2	
	・以前より牛乳が好きになった	1	
	・命の大切さを感じた	1	
	・工場見学が良かった	1	
	・スタッフがする搾乳の上手さに感心した	1	
	・牛の大きさに感心した	1	
	・牛が臭かった	1	
	・牛乳の味の違いが分かるようになりたい	1	
	・バトルカチッが欲しかった	1	

ふれあい体験交流会集計 (8月25日一般消費者等成人)

2. 性別と年齢		
	人数	%
男	2	13.3%
女	13	86.7%
計	15	
	人数	%
20代 男	1	6.7%
30代 女	6	40.0%
40代 女	4	26.7%
60代以上 男	1	6.7%
女	2	13.3%
無回答	1	6.7%
計	15	

3. 今日は何がよかったですか。		
	人数	%
搾乳体験	11	25.6%
牛のおはなし	2	4.7%
バターづくり	13	30.2%
ウインナーづくり	10	23.3%
地産地消の昼食	7	16.3%
その他	0	0.0%
計	43	

5. 今日の交流会に参加されていたいかがでしたか。		
	人数	%
来て良かった	15	62.5%
子供が喜んだ	1	4.2%
予想以上に清潔だった	3	12.5%
楽しかった	2	8.3%
また来たい	3	12.5%
疲れた	0	0.0%
もう来ない	0	0.0%
その他(具体的に )	0	0.0%
計	24	

4. バター作り体験をした感想をお聞きます。		
	人数	%
初めてで楽しかった	9	22.0%
できたので楽しかった	8	19.5%
楽しかった	2	4.9%
おいしかった	8	19.5%
またしてみたい	0	0.0%
家でもしてみたい	12	29.3%
あまりおいしくなかった	0	0.0%
つまらなかった	0	0.0%
もうしたくない	0	0.0%
その他(具体的に )	2	4.9%
計	41	
その他の内容		
・子供にも簡単にできることに驚いた	2	

5. ウインナー作り体験をした感想をお聞きます。		
	人数	%
初めてで楽しかった	13	35.1%
できたので楽しかった	3	8.1%
楽しかった	4	10.8%
おいしかった	9	24.3%
またしてみたい	3	8.1%
家でもしてみたい	3	8.1%
あまりおいしくなかった	0	0.0%
つまらなかった	0	0.0%
もうしたくない	0	0.0%
その他(具体的に )	2	5.4%
計	37	
その他の内容		
・やわらかい	1	
・肉本来の味がして、市販のものには添加物が色々入っていると思った。	1	

9. 全体の感想		
・楽しかった	7	
・初めての体験だった	4	
・昼食がおいしかった	3	
・スタッフの対応が良かった	3	
・孫と参加できてよかった	2	
・体験内容が多くてよかった	2	
・自然の中での活動がよかった	2	
・貴重な体験だった	2	
・子供が喜んでた	2	
・また参加したい	2	
・保護者も体験できたのがよかった	1	
・食育に役立つ体験だった	1	
・勉強になった	1	

## ふれあい体験交流会（8月25日児童生徒等子供向け）

1. 学年 男女 年齢		人数	%
小1	男 年齢(6~7)	2	12.5%
小2	男 年齢(7~8)	4	25.0%
	女 年齢(7~8)	3	18.8%
小3	男 年齢(8~9)	1	6.3%
	女 年齢(8~9)	2	12.5%
小5	男 年齢(10~11)	3	18.8%
	女 年齢(10~11)	1	6.3%
計		16	
2. 今日は何がよかったですか。		人数	%
	搾乳体験	13	28.9%
	牛のおはなし	2	4.4%
	バターづくり	12	26.7%
	ウインナーづくり	9	20.0%
	地産地消の昼食	8	17.8%
	その他	1	2.2%
計		45	
	その他(具体的に)		
	・川遊び	1	
3. 動物ふれあい体験をした感想をお聞きます。(3つまで)		人数	%
	初めて動物に触った	12	25.0%
	臭かった	2	4.2%
	汚かった	1	2.1%
	温かかった	9	18.8%
	優しくかった	2	4.2%
	気持ち良さそうにしていた	7	14.6%
	動物の気持ちが分かるようだった	3	6.3%
	またしてみたい	11	22.9%
	「いのち」の大切さを感じた	1	2.1%
	その他		0.0%
計		48	
4. バター作り体験をした感想をお聞きます。		人数	%
	初めてで楽しかった	15	30.6%
	できたので楽しかった	2	4.1%
	楽しかった	5	10.2%
	おいしかった	4	8.2%
	またしてみたい	6	12.2%
	家でもしてみたい	15	30.6%
	あまりおいしくなかった	2	4.1%
	つまらなかった	0	0.0%
	もうしたくない	0	0.0%
	その他(具体的に)		0.0%
計		49	
5. ウインナー作り体験をした感想をお聞きます。		人数	%
	初めてで楽しかった	12	25.5%
	できたので楽しかった	8	17.0%
	楽しかった	11	23.4%
	おいしかった	6	12.8%
	またしてみたい	6	12.8%
	家でもしてみたい	3	6.4%
	あまりおいしくなかった	1	2.1%
	つまらなかった	0	0.0%
	もうしたくない	0	0.0%
	その他(具体的に)	0	0.0%
計		47	
7. 今日の交流会に参加されていたいかがでしたか。		人数	%
	来て良かった	11	35.5%
	予想以上に良かった	3	9.7%
	楽しかった	8	25.8%
	また来たい	6	19.4%
	期待はずれだった	1	3.2%
	疲れた	2	6.5%
	もう来たくない	0	0.0%
	その他(具体的に)		0.0%
計		31	
10. こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)			
	・川遊び(魚釣り)	7	
	・お菓子(チーズケーキ、クッキー)づくり	2	
	・牛の世話(餌やり、体を洗う)	2	
	・牛に乗りたい	1	
	・牛の足を触りたい	1	
	・乗馬	1	
	・虫捕り	1	
9. 全体の感想			
	・楽しかった	9	
	・乳搾りができてよかった	3	
	・色々な体験ができてよかった	3	
	・また来たい	2	
	・バターづくりの簡単さに驚いた	1	
	・搾乳時間をもっと長くして欲しい	1	
	・牛に触れたのがよかった	1	
	・少し疲れた	1	
	・ウインナーに羊の腸が使われているとは知らなかった	1	
	・バーベキューが楽しかった	1	
	・川が冷たくて気持ちよかった	1	

ふれあい体験交流会集計（9月6日一般消費者等成人）

2. 性別と年齢		
	人数	%
男	1	10.0%
女	9	90.0%
計	10	
	人数	%
30代 女	7	70.0%
40代 女	2	20.0%
50代 男	1	10.0%
計	10	

3. 今日は何がよかったですか。		
	人数	%
搾乳の様子	1	4.0%
ロールペールのおはなし	2	8.0%
牛への飼料給与	6	24.0%
安全な牛乳生産	4	16.0%
牛乳工場見学	7	28.0%
いろいろな牛乳試飲クイズ	5	20.0%
その他	0	0.0%
計	25	

5. 今日の交流会に参加されていかがでしたか。		
	人数	%
来て良かった	8	61.5%
子供が喜んだ	2	15.4%
予想以上に清潔だった	2	15.4%
楽しかった	1	7.7%
また来たい	0	0.0%
疲れた	0	0.0%
もう来ない	0	0.0%
その他(具体的に )	0	0.0%
計	13	

9. 全体の感想		
・子供と一緒に楽しめた	3	
・日頃できない体験ができてよかった	3	
・牛乳が食卓に届くまでが見られたので良かった	2	
・牧場の大変さが分かった	1	
・工場内が清潔	1	
・牛を見る時間をもっと長くして欲しい	1	
・スタッフの説明が分かりやすかった	1	
・牛乳の試飲が楽しかった	1	
・太めの人には低脂肪乳がいいかも	1	

ふれあい体験交流会（9月6日児童生徒等子供向け）

1. 学年 年齢( ) 2. 男 女	人数	%
小2 男 年齢(7~8)	3	30.0%
女 年齢(7~8)	7	70.0%
計	10	
2. 今日は何がよかったですか。	人数	%
搾乳の様子	2	8.0%
ロールペールのおはなし	2	8.0%
牛への飼料給与	5	20.0%
安全な牛乳生産	1	4.0%
牛乳工場見学	8	32.0%
いろいろな牛乳試飲クイズ	7	28.0%
その他	0	0.0%
計	25	

3. 動物ふれあい体験をした感想をお聞きます。(3つまで)	人数	%
初めて動物に触った	2	7.7%
臭かった	4	15.4%
温かった	3	11.5%
優しかった	4	15.4%
気持ち良さそうにしていた	6	23.1%
動物の気持ちが分かるようだった	0	0.0%
またしてみたい	4	15.4%
「いのち」の大切さを感じた	1	3.8%
その他	2	7.7%
計	26	

その他(具体的に)		
・こわかった	2	

7. 今日の交流会に参加されていかがでしたか。	人数	%
来て良かった	5	33.3%
予想以上に良かった	2	13.3%
楽しかった	3	20.0%
また来たい	4	26.7%
期待はずれだった	0	0.0%
疲れた	1	6.7%
もう来たくない	0	0.0%
その他(具体的に)	0	0.0%
計	15	
その他(具体的に)		

10. こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)

・乳搾り	2	
・プリン試食	1	
・ヨーグルトづくり	1	

9. 全体の感想

・楽しかった	5	
・また来たい	3	
・工場見学が楽しかった	2	
・来てよかった	1	
・牛が見られてよかった	1	
・牛乳ができるまでの大変さが分かった	1	

ふれあい体験交流会集計 (11月18日一般消費者等成人)

2. 性別と年齢		人数	%
男		5	38.5%
女		8	61.5%
計		13	
		人数	%
30代	男	2	15.4%
	女	5	38.5%
40代	男	2	15.4%
	女	4	30.8%
計		13	
3. 今日は何がよかったですか。		人数	%
	牛のえさやり	6	17.6%
	牛の身体測定	0	0.0%
	牛の音	2	5.9%
	ごはんたき	8	23.5%
	竹加工	7	20.6%
	里山探検	5	14.7%
	生産者の話	6	17.6%
	その他	0	0.0%
計		34	
4. 手作り体験をした感想をお聞きます。		人数	%
	初めてで楽しかった	6	21.4%
	家でもしてみたい	2	7.1%
	できたので楽しかった	3	10.7%
	あまりおいしくなかった	0	0.0%
	楽しかった	5	17.9%
	つまらなかった	0	0.0%
	おいしかった	10	35.7%
	もうしたくない	0	0.0%
	またしてみたい	1	3.6%
	その他(具体的に )	1	3.6%
計		28	
その他の内容 自分のキャンプで実施したい。食器や道具を現地調達し、合理的かつ風情が			
5. 生産者との意見交換について感想を聞かせてください。		人数	%
	生産者の気持ちが理解できた	12	60.0%
	もっと話をきいてみたい	5	25.0%
	まだよくわからないことがある	2	10.0%
	時間が無かった	1	5.0%
計		20	
その他の内容			
5. 今日の交流会に参加されていかがでしたか。		人数	%
	来て良かった	10	41.7%
	子供が喜んだ	4	16.7%
	予想以上に清潔だった	2	8.3%
	楽しかった	3	12.5%
	また来たい	5	20.8%
	疲れた	0	0.0%
	もう来ない	0	0.0%
	その他(具体的に )	0	0.0%
計		24	
8. いま、一番知りたい畜産の情報は何ですか、3つまで書いて下さい。			
	純和牛の購入できる店はどこか(アメリカ産牛が嫌なので)。	1	
	安全性	1	
	牛の育つ環境	1	
	生産者・消費者を取り巻く環境	1	
	ふるさと牧場の牛は大切にされていて、安全・安心であるが市販の肉はどうか。	1	
	後継者対策 - 法人化など	1	
	不況業種からの経営多角化対策による畜産業・農業への進出計画	1	
	どのようなことを消費者(体験者)へ行っているか。	1	
	搾りたての牛乳は飲めるのか。	1	
9. 全体の感想			
	楽しかった。	3	
	子供と一緒に楽しめた。	3	
	準備をありがとうございました。	3	
	食事がおいしかった。	2	
	雨で残念。	2	
	農業・機械ばかりに頼らず、畜産業に取り組まれている生き方に影響を受けた。	1	
	山本さんの畜産への思いに感動。	1	
	放牧にびっくり。	1	
	牛のえさに種類があることが分かった。	1	
	前準備のおかげで安心して体験できた。	1	
	子供に竹細工のノコギリの使い方を教えてもらって良かったが、待ち時間が長かった。	1	
	全ての牛に番号(名前)があり、家計図のような表に感心した。	1	
	安心して牛肉を食べられることに感謝。	1	
	ふるさと牧場の牛は良い環境で育っていてうらやましい。	1	
	また参加したい。	1	
	貴重な体験だった。	1	
	牧場の生活が良く分かった。	1	
	昔の里山を体験できた。	1	
	竹細工は自分でもやってみたい。	1	

ふれあい体験交流会（11月18日児童生徒等子供向け）

1. 学年 年齢( ) 2. 男 女		人数	%
小1	男 年齢(6~7)	1	9.1%
	女 年齢(6~7)	2	18.2%
小2	男 年齢(7~8)	1	9.1%
小3	男 年齢(8~9)	1	9.1%
	女 年齢(8~9)	2	18.2%
	女 年齢(9~10)	1	9.1%
小5	男 年齢(10~11)	3	27.3%
計		11	
2. 今日は何が良かったですか。		人数	%
牛のえさやり		8	27.6%
牛の身体測定		1	3.4%
牛の音		1	3.4%
ごはんたき		7	24.1%
竹加工		6	20.7%
里山探検		0	0.0%
生産者の話		0	0.0%
子牛とのふれあい		5	17.2%
その他		1	3.4%
計		29	
その他の内訳			
散歩			
3. 動物ふれあい体験をした感想をお聞きます。(3つまで)		人数	%
初めて動物に触った		4	13.3%
臭かった		2	6.7%
汚かった		2	6.7%
温かかった		4	13.3%
優しくかった		3	10.0%
気持ち良さそうにしていた		3	10.0%
動物の気持ちが分かるようだった		1	3.3%
またしてみたい		7	23.3%
「いのち」の大切さを感じた		3	10.0%
動物も人間も同じだと思った		1	3.3%
その他		0	0.0%
計		30	
4. 手作り体験をした感想をお聞きます。		人数	%
初めてで楽しかった		6	21.4%
家でもしてみたい		5	17.9%
できたので楽しかった		3	10.7%
あまりおいしくなかった		0	0.0%
楽しかった		6	21.4%
つまらなかつた		0	0.0%
おいしかった		3	10.7%
もうしたくない		0	0.0%
またしてみたい		5	17.9%
その他(具体的に )		0	0.0%
計		28	
その他の内容			
6. 今日の交流会に参加された感想をお聞きます。		人数	%
来て良かった		5	29.4%
予想以上に良かった		3	17.6%
楽しかった		3	17.6%
また来たい		6	35.3%
その他( )		0	0.0%
計		17	
9. こんなことがしたかったと思うものがありますか。(3つまで)			
牛の乳搾り		1	
犬の散歩		1	
遊びたかった		1	
牛の骨が見たい		1	
キャンプ		1	
干し柿・梅体験		1	

10. 全体の感想			
どの体験も楽しかった。		5	
初めての体験が多くて良かった。		2	
また来たい。		2	
竹で作った食器が記念になった。		1	
牛とのふれあいが良かった。		1	
ご飯炊き良かった。		1	
牛の気持ちが分かってよかった。		1	
とてもよい時間を過ごせた。		1	
今回のことを活かして交流できたらいいと思った。		1	
牛の乳搾りができなくて残念だった。		1	
最初は緊張したけど、牛との体験で緊張がほぐれた。		1	
これからも山本さんたちを中心に自然を守って欲しい。		1	



加工調理体験教室用（1月27日一般消費者等成人向け調査項目）

2.性別と年齢	人数	%
男	2	20.0%
女	8	80.0%
計	10	
	人数	%
20代 女	2	20.0%
30代 女	3	30.0%
40代 男	2	20.0%
女	2	20.0%
50代 女	1	10.0%
計	10	

3.本日、参加された目的は何ですか、	人数	%
新しい食材や調理法を学ぶため	6	60.0%
畜産物の料理について知るため	1	10.0%
畜産物について興味があったから	1	10.0%
知人や友達に誘われたから	2	20.0%
ヒマだし、何となく参加		0.0%
その他( )		0.0%
計	10	

5.今日は何が良かったですか。(3つまで)	人数	%
調理前の話	2	7.7%
食材について	5	19.2%
調理の内容	7	26.9%
酪農の話	4	15.4%
調理後の話	3	11.5%
食材の産地や入手法	3	11.5%
参加者同士の交流	2	7.7%
その他( )		0.0%
計	26	

6.本日の加工調理体験に参加された感想をお聞きます。(3つまで)	人数	%
初めての経験で面白かった	9	31.0%
上手くできたので嬉しかった	2	6.9%
楽しかった	1	3.4%
おいしかった	7	24.1%
家でもぜひしてみたい	8	27.6%
期待したほどではなかった		0.0%
あまりおいしくなかった		0.0%
あまり参考にならなかった		0.0%
その他		
初乳を使用したチーズという貴重な体験ができた	2	6.9%
子どもが積極的によく動いていた		
計	29	

10.畜産物の加工調理でこんなことを教えて欲しいというものがありましたら3つだけ書いて下さい。	人数	%
・生クリームやチーズを使った料理	1	20.0%
・おやつを知りたい。	2	40.0%
・チーズ、肉の燻製、ウインナーづくり	2	40.0%
計	5	

11.全体の感想
・地域の旬の野菜と畜産物を使っての調理を学べた。子どもも皿洗いや調理など思ったより楽しそうにしておいしいきっかけとなった
・初めての体験で楽しかった。ハナッコリーをはじめて食べた。美味しかった。
・チーズづくりは初めての事なので楽しくやれた。
・家では子どもと料理を作ることがなかったので、とてもよかった。チーズがごはんに入ったり、鍋に入ったりと初めての味が楽しめた。
・子どもも包丁を使うなど勉強になった。参加者同士の交流も楽しかった。家でも牛乳を使って料理をしてみたい。
・子どもと一緒に料理をする機会がないので楽しい時間を過ごせた。カッターチーズの作り方はとても参考になり、鍋もおいしかった。
・日ごろ子どもと一緒に料理をする時間が無いのでよかった。酪農家と接することがないので、いろいろ話げできた。
・昨年参加してから、子どもが自分で料理をするようになった。

## 加工調理体験教室用(1月27日児童生徒等子供向け調査項目)

1. 学年 年齢( ) 2. 男 女	人数	%
小1 男 年齢(6~7)	1	10.0%
女 年齢(6~7)	1	10.0%
小2 男 年齢(7~8)	2	20.0%
女 年齢(7~8)	1	10.0%
小3 男 年齢(8~9)	2	20.0%
小4 女 年齢(9~10)	1	10.0%
小5 男 年齢(10~11)	1	10.0%
小6 男 年齢(11~12)	1	10.0%
<b>計</b>	<b>10</b>	
3. 今日は何が一番良かったですか。	人数	%
調理前や後のお話		0.0%
実際の加工調理	10	100.0%
食材のお話		0.0%
酪農のお話		0.0%
その他( )		0.0%
<b>計</b>	<b>10</b>	
4. 今日、加工調理体験をした感想をお聞きます。(3つまで)	人数	%
初めての経験で面白かった	5	16.7%
上手くできたので嬉しかった	6	20.0%
楽しかった	7	23.3%
こんなにおいしいものとは思わなかった	4	13.3%
家でもぜひしてみたい	8	26.7%
あまりおいしくなかった		0.0%
あまり勉強にならなかった		0.0%
疲れたしもうやりたくない		0.0%
期待したほどではなかった		0.0%
その他( )		0.0%
<b>計</b>	<b>30</b>	
10. こんな加工調理をしてみたいと思うものがありますか。(3つまで)		
・美味しいデザート	2	
・お菓子の家	2	
・めずらしい料理	2	

11. 全体の感想
・牛乳鍋を作るのがおもしろかった。家でもやりたい。
・おもしろい牛乳鍋ができて楽しかった。おいしかった。家でも作りたい。
・自分で作ったからおいしかった。
・自分で作ったからおいしかった。作るのがたのしかった。あつくてあたたかかった。
・ジュースと牛乳鍋がおいしかった。
・牛乳でいろいろなものができてビックリ。カッテージチーズが美味しかった。
・みんなでつくったのでおいしかった。
・牛乳が作った豆腐がおいしかった。家でもぜひ作りたい。
・たのしかった。
・今日は楽しかった。いっぱいわからないことがわかった。全部手作りなのでおいしかった。

## 加工調理体験教室用（2月17日一般消費者等成人向け調査項目）

2. 性別と年齢	人数	%
男	4	40.0%
女	6	60.0%
計	10	
	人数	%
30代 男	2	20.0%
女	4	40.0%
40代 男	2	20.0%
女	2	20.0%
計	10	

3. 本日、参加された目的は何ですか。	人数	%
新しい食材や調理法を学ぶため	2	20.0%
畜産物の料理について知るため	1	10.0%
畜産物について興味があったから	3	30.0%
知人や友達に誘われたから	3	30.0%
ヒマだし、何となく参加		0.0%
その他( ) ・妻に勧められたから(1人)	1	10.0%
計	10	

5. 今日は何が良かったですか。(3つまで)	人数	%
調理体験	5	16.7%
肉用牛クイズ	7	23.3%
牛肉のお話	3	10.0%
肉用牛農家のお話	4	13.3%
テイasting	9	30.0%
食材の産地や入手法	1	3.3%
参加者同士の交流		0.0%
その他( ) ・今日の取組み全体(1人)	1	3.3%
計	30	

6. 本日の加工調理体験に参加された感想をお聞きます。(3つまで)	人数	%
初めての経験で面白かった	6	22.2%
上手くできたので嬉しかった		0.0%
楽しかった	6	22.2%
おいしかった	9	33.3%
家でもぜひしてみたい	6	22.2%
期待したほどではなかった		0.0%
あまりおいしくなかった		0.0%
あまり参考にならなかった		0.0%
その他		0.0%
計	27	

10. 畜産物の加工調理でこんなことを教えて欲しいというものがありましたら3つだけ書いて下さい。	人数	%
・乳製品を使った簡単デザート(小学生でも作れる)	1	11.1%
・子ども達が企画するパーティーで作れそうなおかず	1	11.1%
・肉(鶏、豚、牛)の焼きについてのタイミング	2	22.2%
・生食について何がタイミングが知りたい	1	11.1%
・畜産農家のお勧め料理	1	11.1%
・家でも作れるソーセージ	3	33.3%
計	9	

11. 全体の感想
・予想以上の食材で満足。はじめてサラダで食べた野菜が美味しい。岩塩で美味しく食べることがわかり収穫だった。とてもよいイベント。
・肉の焼き方により味が全然違うことに驚き。タレに頼らなくても美味しく食べれた。説明もわかりやすかった。
・肉用牛のお話が特に良かった。クイズも子どもの興味あるものであり、解説に驚きが多かった。スーパーで牛肉を見ると番号に目がいくと思う。野菜も今日のように安心して食べられるものを知ることができてうれしいし、宣伝していきたい。野菜も牛肉も心をこめて育てられていることを子ども達も感じた。このことを忘れずに、これからも美味しく食べさせていきたいと思う。
・時間配分や段取りなど参加者へ食肉のテイasting以外で十分配慮があったと感じた。
・今までは肉をわざわざ硬くなるまで待って食べていたことを知った。これからは、美味しく食べられるよう、あせらず、いじらず、気をつけて食べたい。
・牛肉の味を改めて知ることができた。野菜も美味しく貴重な体験ができた。
・楽しく過ごせた。暖房がなかったので寒かった。
・牛肉だけでなく野菜の話など、一番理解している生産者の話を聞くことができて参考になった。より美味しく食事ができるよう機会があれば、いろいろな話を聞きたい。
・農家の方たちにいろいろ教えていただき、楽しく勉強できた。美味しく、楽しく、嬉しい1日になった。
・生産者の牛肉への思い入れが良く伝わった。家庭では食材の用意が難しいので食べ比べは良かった。

加工調理体験教室用(2月17日児童生徒等子供向け調査項目)

1. 学年 年齢( ) 2. 男 女	人数	%
小1 男 年齢(6~7)	1	9.1%
小1 女 年齢(6~7)	2	18.2%
小2 男 年齢(7~8)	2	18.2%
小3 女 年齢(8~9)	1	9.1%
小4 女 年齢(9~10)	2	18.2%
小5 男 年齢(10~11)	1	9.1%
小5 女 年齢(10~11)	2	18.2%
<b>計</b>	<b>11</b>	
3. 今日は何が一番良かったですか。	人数	%
調理前や後のお話		0.0%
実際の調理	10	90.9%
食材のお話		0.0%
牛のお話	1	9.1%
その他( )		0.0%
<b>計</b>	<b>11</b>	
4. 今日、加工調理体験をした感想をお聞きます。(3つまで)	人数	%
初めての経験で面白かった	3	9.7%
上手くできたので嬉しかった	2	6.5%
楽しかった	8	25.8%
おいしかった	10	32.3%
家でもぜひしてみたい	8	25.8%
あまりおいしくなかった		0.0%
あまり勉強にならなかった		0.0%
疲れたしもうやりたくない		0.0%
期待したほどではなかった		0.0%
その他( )		0.0%
<b>計</b>	<b>31</b>	
10. こんな加工調理をしてみたいと思うものがありますか。(3つまで)		
・おやつ作り、デザート作り	5	
・簡単なおかず	2	
・牛肉お勧め料理	1	
・牛に乗ってみたい	1	
・牛のお世話がしてみたい	1	
・家で作れるソーセージ	2	
・肉を自分で焼きたい。野菜を切りたい。	1	
11. 全体の感想		
・焼き方など美味しい食べ方を教えてもらって、すごく美味しく食べれた。		
・また参加したい。		
・作るのが楽しかった。焼肉は塩が一番美味しかった。デザートは作り方が良くわかったので、家でも作		
・作るのも楽しかったし、美味しかった。		
・楽しかった		
・とても美味しかったので、家でも同じように焼いてみたい。		
・自分で作ったのがおもしろかった。初めて食べる肉は美味しかった。塩だけで美味しかった。		
・牛肉の食べ方、牛の育て方がわかった。とても楽しかった。		
・いろいろ教えてもらってよかった。楽しくて美味しかったが、説明が長い。		

## 平成18年度 ふれあい体験の現地取材

事務局では、関係機関や畜産農家から、牧場に小学校が訪問する情報を得て、その様子を取材するとともに、昨年度作成した「牧場へ入る前に」「肉用牛ポスター」などを使って、受入れ農家のサポートを行った。

### 事務局取材事例

- H18.7.10 藤井会長 周南市立和田中学校へ出前講座
- H18.7.7 田村牧場(酪農)関西小学校3年生親子40名視察(乳業協会事業)
- H18.7.31 原田牧場(酪農)麦川小学校全児童視察25名(乳業協会事業)
- H18.11.14 隅牧場(肉用牛)美川小学校1年生7名視察
- H18.11.16 池田牧場(酪農)右田小学校2年生60名の視察

この様子はHP (<http://yamaguchi.lin.go.jp/fureai/index.html>) に紹介したので以下に示す。

### 周南市立和田中学校で酪農の仕事、地域の取組みを講義(藤井牧場)

平成18年7月10日(月)周南市立和田中学校の音楽室に全校生徒が集まりました。地元で酪農経営をしている藤井牧場の藤井朋子さんが教壇に立ち、酪農という仕事について、地域の農業や体験学習への取組みについて1時間ほど講演をしました。

藤井さんは県下でも少ない酪農教育ファーム認定を受け、近所の和田小学校の総合学習を受け入れたことがあります。小学校1年生が半年にわたって藤井牧場に通い、貴重な体験をしています。その時の1年生が今、中学校2年生になり、今日、藤井さんの話を聞くことになりました。

講演の内容は、自身が酪農家へ嫁いだ経緯、毎日の酪農作業、さらに、統計調査などの数値を使って、農家人口や食料自給率、資源循環型農業の課題について説明しました。さらに、和田地区への貢献として、和田ファームを設立し、市街地から転居してきた団地の子どもたちに農業体験や川遊び体験などの機会を作ったり、地域の有機農産物を支援する仕組みを作るなどの取組み状況を説明しました。

これから、どんな職業に就くか考えはじめる中学生に、藤井さんの話がどのように響いたのでしょうか。酪農という仕事もやり方によっては地域に広く貢献できる仕事であることを理解してもらったら幸いです。<藤井さんは「やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会」の会長でもあります> (2006.7.10 総括コンサルタント清水誠)



藤井さんはパネルを使ったり、資料も自分で作ります。



中学生は、とても静かに聴いています。



講演の後は、毎日の作業時間や地域の活性化について、また、牛を飼っているときの苦労などを質問され、丁寧に回答していました。

## 下関市立関西小学校 3 年生の酪農体験

平成 18 年 7 月 7 日(金)下関市菊川町の田村牧場に市内関西小学校 3 年生とお母さん達が牛乳のできるまでを勉強するためにやってきました。昨年ふれあい協議会で作成した「牧場へ入る前に」を活用して靴底の消毒と手を洗うことを理解してもらいました。はじめに確認したところ、県内の牧場を訪れるのは初めてだとか。この小学校は下関駅を校区とする、コンサルタントが小学生のころは有名なマンモス校だったと記憶していましたが、今や 3 年生全体で 28 人しかいないそうです。担任の先生は、少数だからかえっているいろいろなことができるとおっしゃっていましたので、今回の研修に取り組んだようです。子どもたちは、ちゃんとはじめの約束を守って、騒がずにいてくれました。質問がたくさん出されて田村さんも大変でしたが、こんな嬉しそうな表情は久しぶりです。お母さん達も、日ごろ目にすることのない牧場の牛たちに興味津々だったようです。牛を間近で見たことのない子どもたちが増えないように、このような牧場研修があちこちでできるように支援したいと思います。関西小学校の皆さん牧場はどうでしたか？牛乳は残さずに飲んでくれますよね。(総括畜産コンサルタント清水誠 2006.7.7)

	<p>搾乳室へ入ります。 靴の底を良く消毒します。</p>		<p>一度に 10 頭が搾乳できるパーラーです。</p>
	<p>いよいよ牛を見に行きます。</p>		<p>勇気ある子どもたちが牛に触っています。</p>
	<p>一人一つの質問コーナーです。</p>		<p>お昼は、近くの県酪白鷺牧場で弁当です。 この草地はジャージーが管理しています。 ソリで滑ることができます。</p>

## 美祢市立麦川小学校の酪農体験(原田牧場)

平成 17 年 7 月 31 日(月)美祢市立麦川小学校の子どもたちが下関市菊川町の原田牧場にやってきました。麦川小学校は、近年児童数が減少し、全校児童 25 名だとか。今回は、先生と保護者の方も一緒に、PTA 活動の一環として酪農の勉強に取り組まれたそうです。一行は、最初、やまぐち県酪乳業で「牛乳ができるまで」を見学し、乳業から車で 10 分のところにある原田牧場にやってきました。ちょうど、県酪の集乳トラックが来ており、バルククーラーから牛乳が吸引されているところを見ることができました。それから、牛が飼料を食べているところを見学しました。最後に、搾乳をするパーラーを見学し、牧場を後にして帰って行きました。元気な男の子が一生懸命餌を掃き寄せていました。子どもたちは、酪農の現場を見るのははじめての子が多く、保護者の方も初めての方ばかりでした。学校も数年前に近くの和牛農家を見に行ったことがある程度だそうです。今日見学に来た皆さん、暑かったですね。牛がどんな餌を食べ、どんなところで飼われているかわかりましたか？牧場に行く機会があったら、今回のことを思い出してください。原田牧場さんも熱心に説明をしていました。お疲れ様でした。(2006.7.31 総括コンサルタント清水誠)



子ども達が来る前に集乳車がやってきました。



最初に牛とご対面です。  
育成牛と搾乳牛では飼料が違うことを理解していただきました。



ここで、牛乳を搾ります。  
衛生的に管理されていることが理解できたと思います。  
牛乳は残さずに飲んでくださいね。

## 岩国市立美川小学校1年生が牧場体験(隅牧場)

平成18年11月14日(火)あいにくの雨です。岩国市美川町添谷にある隅牧場に、子ども達の声が響きます。今日は1年生全員(7名)がスクールバスに乗って牧場体験にやってきました。元気にあいさつができた後は、さっそくえさやりです。お腹をすかせたお母さん牛にフスマを与えます。「こらこら、牛の頭にふりかけてはいかん」。それから、乾草です。2種類の草を与えました。えさを食べるところが、いっぱいになりましたが、牛達は、1日で全て食べてしまいます。こんなにたくさんの草を食べることにびっくりです。

それから、ポスターを見ながら、肉牛の勉強です。黒毛和種という言葉をおぼえられたでしょうか。隅さんは、先月生まれた子牛のことを話しました。難産で生まれ、もうだめかな、とあきらめていた子牛ですが、母牛が舐めつけ、子牛も生きようと懸命だったそうです。獣医さんも毎日治療してくれたおかげで、かなり元気になったそうです。そうした経験をふまえて、命の大切さを子ども達に語りかけました。

お話にあった元気になった牛とお母さん牛(さき)を見せてもらい、次は、放牧牛のスケッチです。無心に草を食べている牛を見ながら、クレヨンを走らせていました。ちゃんと黄色い耳タグまで描いていたことには関心しました。

雨も最初だけで、スケッチをするころには、日差しが強くなり、汗ばむほどでした。1年生の皆さん、隅牧場の体験はどうでしたか?帰ってから、お家の方へ牛のこと、隅さんのお話したことを教えてあげてください。

(2006.11.14 総括コンサルタント清水誠)

	<p>みんなでフスマを与えます。</p>		<p>牛の頭にかけちゃった。</p>
	<p>次は、乾草です。「こんなにやっているの?」</p>		<p>隅さんのお話に出てきた、子牛です。みんなで名前を付けることになりました。</p>
	<p>牛舎を出るときは、靴の底を消毒し、手も消毒します。農林事務所のおじちゃんがていねいに指導します。</p>		<p>しっかり牛を見ながらスケッチ開始。</p>
	<p>今日の当番の子が、連動スタンションのレバーを解除します。牛達は一目散に運動場へ遊びにいきました。</p>		<p>お別れに、きちんとあいさつができました。また、来てください。</p>



## 防府市立右田小学校2年生が牧場体験(池田牧場)

平成18年11月16日(木)防府市市牟礼にある池田牧場に、60名の子ども達がやってきました。市内にある右田小学校の2年生です。池田牧場に直接依頼があったのでサポートに出かけました。池田牧場ではこれまで近くの牟礼南小学校5年生を受けれたり、農協などの依頼で牧場体験を受け入れたことがありますが、低学年の子ども2クラスという大人数を受け入れるのは初めてです。2班に分かれて牛舎と堆肥舎班とパーラーを見る班に分かれました。牛舎では乾草を給与し、牛の大きさに驚いていました。また、牛のウンチが堆肥になる過程を見てもらいました。堆肥の最終段階で、戻し堆肥用に再度発酵させている山をスコップで掘り、70℃になっている堆肥を触ってもらいました。初めての牧場に興奮し、黙って話を聞くことは難しいようですが、実際に温かい堆肥の感触には歓声が上がってましたので、良い体験ができたのではないのでしょうか。(2006.11.16 総括コンサルタント清水誠)



最近産まれた子牛に興味津々ですが、大きな牛はちょっと怖かったようです。



靴の底を消毒して、牛舎に入ります。



元気な子は子牛に乾草を食べてもらいたくてがんばります。



堆肥は臭いもなく暖かいと知ると、山に手を突っ込みたくてたまらない子ども達です。



パーラーの説明です。ここで牛乳を搾乳することがわかりましたか？



質問コーナーでは、事前に考えてきた疑問を発表していました。



2時間ほどでしたが、名残惜しそうな女の子達がいつまでも手を振っていました。

## <取材から見える今後に向けての課題>

**出前講座の事例**；畜産農家が学校などで講義。協議会は、畜産のテキスト、パンフ、メディア(パワーポイント、ビデオ等)でのサポートが可能。畜産農家の生の声と写真などの資料を組み合わせて、職業としての畜産、地域農業や他産業との関わりなどが学習できる。社会科、職場体験、総合学習のきっかけなどを期待。お話ができる人材の確保が必要。

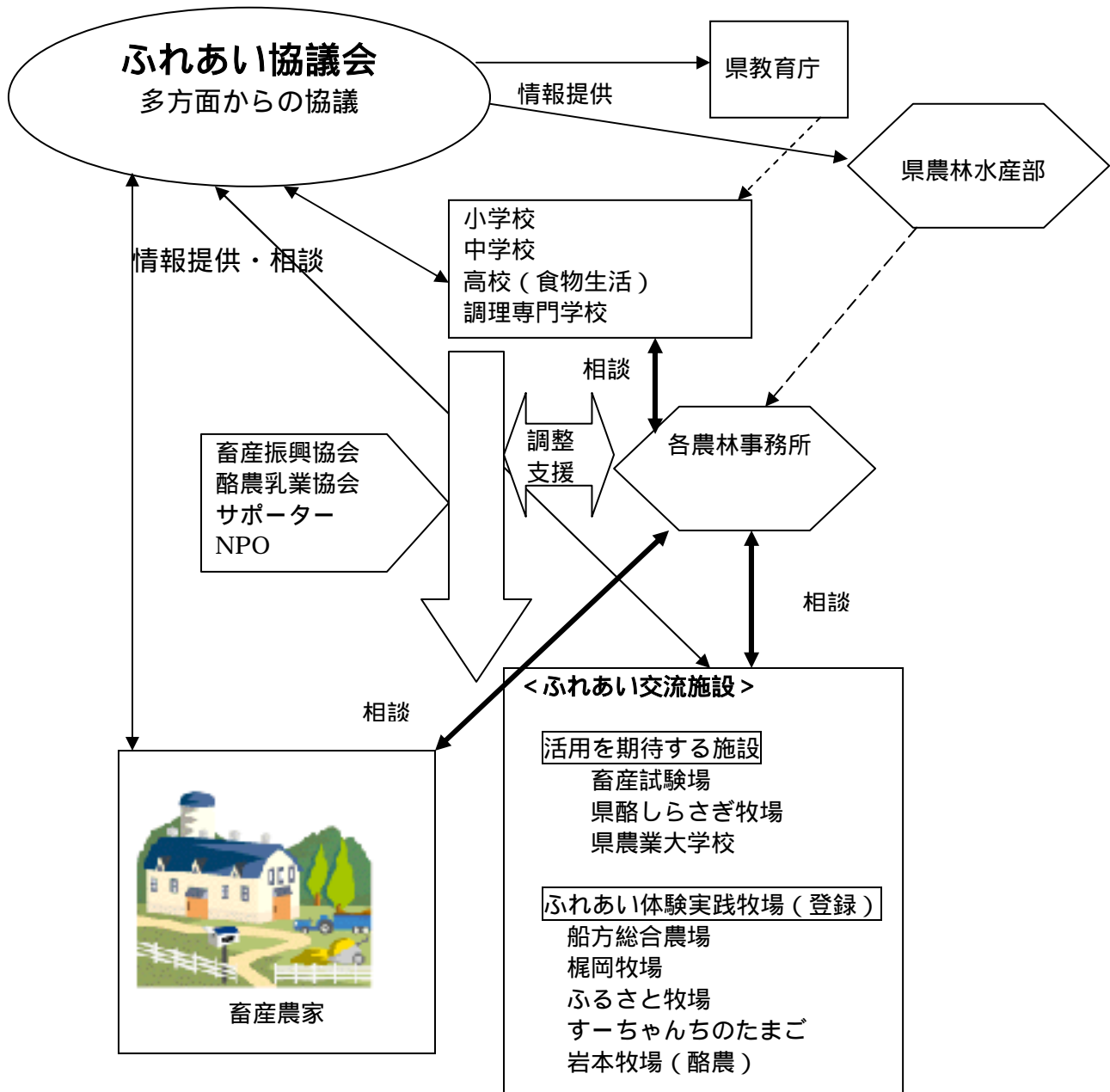
**牧場体験(酪農)の事例**；牧場規模により視察受入れ人数が異なる。視察時間は30分から1時間程度が限界。2クラスの人数になると引率の先生以外に、サポーターが必要。家畜を実際に見たことの無い小学生(親も、先生も)は多い。畜産物がどのようなところで生産されているか、どんなものを食べているのか、実際に見ることは、畜産物を知る基本であり、消費拡大にも必須。農家が負担を感じないようにサポート(学校への周知徹底、当日の補助、テキストやポスター利用、消毒指導)体制確立が必要。

**肉用牛の牧場と地元小学校の継続体験の事例**；毎年秋に小学校1年生が牧場体験を実施。畜産農家も小学校で畑作りやカブトムシ幼虫(たい肥の中にいる)を提供。学校からは給食などへ招待するなど、相互交流を継続している。牧場体験でのお話を聞いた校長先生の依頼により平成19年1月の始業式には、畜産農家(奥さん)が学校へ出向き、自分の生い立ちや農家に嫁いだこと、牛を飼い始めたことなどを踏まえて、命の大切さを全校児童の前で語りかけた。地元農林事務所も原稿校正などの支援を積極的に行っており、理想的な体験牧場の事例。

## <事務局の思い>

- **視察と体験の仕訳**・・・1日体験としての搾乳や牛測定などは印象に残る。しかし、家畜を使っただけの体験は個人農家にはリスクがあるので、公共機関の家畜利用が理想。個人農家には基本的に30分から1時間程度の視察(粗飼料給与や牛のスケッチ程度まで)。
- **学校単位での受入れ**・・・牧場へ入るためのレクチャーが必要であるが、農家が行うより協会や関係機関がする。また、受け入れる時は防疫や衛生面からも行政(農林事務所畜産部など)が立ち会って欲しい。学校から農家への直接依頼ではなく、農林事務所など関係機関を通した流れになることが理想。教育関係へも相談先などの情報をHPなどで紹介することが必要。
- **多人数を受け入れる体験の場確保**・・・畜産試験場、農業大学校、県酪しらすぎ牧場などの公共牧場、ふれあい体験実践牧場など。例えば、搾乳体験では、NPO法人きららの里などの活動に酪農家が参加することで、ふれあい体験受け入れ経験の少ない酪農家が意識改革になることを期待。
- **学校での畜産ふれあい体験学習実践(平成19年度の目標)**・・・学校へ出向き、教室や校庭で多くの子供達に体験やお話をするのが可能。**体験学習の例** 酪農の仕事について(1時間程度講義)。学校での搾乳体験(2時間)。牛乳ができるまで学習(1時間、ビデオ利用)。牛乳を使った料理(2時間)。希望する学校と協議し、学習プログラムを作成。1回あるいは2～3回による体験学習を実施し、モデル事例として広く紹介する。

# <ふれあい体験支援体制の目標>



## 特別寄稿

### 池田牧場と防府市立牟礼南小学校との連携による 学校給食の残渣を使った堆肥づくりプログラムの実施

山口大学農学部教授 高橋肇（たかはしただし）

本とりくみは、防府市立牟礼南小学校が同地区の池田牧場の協力のもと、学校給食で生じた食品残渣を牛糞堆肥に混ぜて作った堆肥を使って、学校菜園で野菜作りを行うという体験型環境学習プログラムを総合学習として続けているものである。そのきっかけは、平成 15 年の秋に同小学校の 6 年生児童 60 名に対して、学校から数百メートルの距離にある池田牧場で、牛糞の堆肥に家庭生ごみを加えて作る生ごみ堆肥づくりについての農業・環境体験学習プログラムを実施したことに始まる。これらとりくみは、山口県農林水産部と一体となっており、すすめられている県民運動である「食と緑の県民フォーラム」の普及啓発事業の一環でもあり、池田静枝氏を中心とした地域のとりくみと、このような環境学習を支える山口県環境パートナーの協力により実現できたものである。

#### 食と緑の県民フォーラム

食と緑の県民フォーラムは、山口県の豊かな食と緑を守り育てていく行動に参加する消費者、流通関係者、農林業者などの幅広い県民で構成する組織であり、県民運動として食と緑を守り育てる活動を支援していこうとする団体である。フォーラムでは、県内の食と緑に関わる様々な団体と緊密に連携をとりながら、年 4 回発行する情報紙「食と緑」を通じて、7000 人を超える会員に対して「食と緑」に関する幅広い情報を届けるとともに、シンポジウム、交流会、体験イベントなど、「食と緑」に関する研究成果を学ぶ場を提供し、会員相互の交流・情報交換する場を提供している。

フォーラムでは、その活動の一環として、30 余名からなる実行委員が主体的に「食と緑」に係る調査・研究を行う 4 つの調査グループを設けている。池田氏の所属する第 4 調査グループでは、これまでに「循環社会に貢献する食と緑づくり」をテーマとして、生ゴミの堆肥化による資源循環型の社会を山口県内の各地域に実現していくことを目的として、平成 13 年から様々なとりくみを続けてきた。家庭の生ごみ処理に関するアンケート調査から始まり、実証試験の準備を重ねるとともに、その生ごみ搬出のルールづくりなどについても検討を重ねてきた。

#### 池田牧場での生ごみ牛糞堆肥づくりのとりくみ

フォーラムの第 4 調査グループでは、2 年間の準備を踏まえ、平成 15 年に、池田牧場の池田氏と日頃交流のある友人を中心とした 10 名ほどのメンバーにより、市民が牧場へ生ゴミを持ち込み、これを牛糞と混ぜて堆肥をつくるというとりくみを実現するに至った。このとりくみは、小規模で実施したこともあり、さらに池田氏と友人

の方々の強い信頼関係に支えられたことにより、3年を経過した現在に至るまで継続されている。成果物である生ごみ牛糞堆肥も、堆肥づくりの仲間やその周辺の野菜農家から「おいしい野菜ができる」と高く評価されている。

### 山口県環境パートナー

山口県環境パートナーは、平成15年11月以降、学習プログラムを実施するうえで、牧場と牟礼南小学校との連携を仲立ちする重要な役割を果たしてきた。環境パートナーは、平成12年に山口県で開催された「山口きらら博覧会」の体験型の環境学習会場となった「いきいきエコパーク」でインタープリター（説明者の意味；当時、エコパートナーと呼ばれた）を務めた人々で組織された環境学習を企画・実施できる人材をいう。博覧会実施にあたって1年間の研修を経て育成された人材に、博覧会終了後も県内で活躍してもらうために組織されたものであり、学校等の教育機関が総合学習を含めた環境学習プログラムを企画・実施してほしい場合に、当組織からふさわしい人材が派遣されるとともに、その人材に対して一定の手当ても支給されるというしくみである。今回、食と緑の県民フォーラムが、牟礼南小学校に対して、プログラムの実施にあたり環境パートナーの派遣を依頼するよう進言した。

### 農業・環境体験学習プログラムの実施（平成15年11月、平成16年11月）

本プログラムは、池田牧場と牟礼南小学校とが初めて実施した連携プログラムである。実施にあたり、環境パートナーが牧場、小学校の双方と打ち合わせを重ね、牧場を見聞きしながら歩いて学ぶ、クイズ形式のウォークラリー「池田牧場を探れ！」を開発して実施するとともに、ペットボトルを用いたバターづくりと生ごみ牛糞堆肥づくりの2つの体験とを組み合わせたプログラムを6年生児童60名に対して実施した。途中、牛がお産するというハプニングもあり、子どもたちはプログラムによる学習とともに、新しい命の誕生を見守るというきわめて貴重な経験もした。この日誕生した牛は、「ミナミ」と名づけられ、現在池田牧場で牛乳を生産している。

また、同じプログラムは、平成16年11月に牟礼南小学校の5年生を対象に実施された。この年度の5年生は、本プログラムを総合学習の授業の一環に位置づけ、9月に「理想の学校給食」と「学校給食の残飯をあなたならどうする」をテーマにした意見交換を行うところから始めた。この意見交換をもとに、11月のプログラムは「牛と学ぶ環境型社会を学ぶ体験学習」と題して環境パートナーの協力のもと実施された。さらに、プログラム実施後は、小学校において、5年生児童の手で池田牧場の牛糞に給食残渣を加えて堆肥づくりを行った。

### 食と緑の子どもフォーラムの実施（平成17年7～11月）

食と緑の県民フォーラムは、池田牧場と牟礼南小学校との連携によるとりくみを山口県内の他の地域にも広げていこうと、他に連携可能なケースがあるかについて探る

ことを契機として実施された。県内のとりくみを調べた結果、周南市の藤井牧場と和田小学校との連携と出会うこととなった。平成17年度は、和田小学校4年生児童による「食と緑の子どもフォーラム」を開催し、生ゴミの堆肥化による資源循環の学習や、周南市藤井牧場との連携による「牛舎の乳牛とのふれあい体験」を行なった。さらに、11月には小学校内に設置した生ゴミ堆肥製造施設で堆肥づくりの体験学習も行った。

牟礼南小学校でも、池田牧場との連携によるプログラムが続けられていた。平成17年11月には、前年度5年生時に総合学習で本プログラムを学習した当年度6年生児童の成果発表会の場として、「食と緑の子どもフォーラム発表会」を開催した。この発表会では、6年生児童がパソコンプロジェクターによるプレゼンテーション、ホワイトボードでの資料説明、堆肥づくりをテーマとする演劇を通じて、次世代となる5年生児童に対して、牛とともにつくる環境型社会を学ぶことの意味を紹介した。なお、この発表会には、周南市立和田小学校の4年生児童も参加しており、和田小学校の児童は、街の酪農と田舎の酪農の違いを認識することもできた。

「食と緑の子どもフォーラム発表会」終了後は、牟礼南小学校5年生児童と和田小学校4年生児童に対して、池田牧場では3年目となる農業・環境体験学習プログラムが環境パートナーの指導のもと実施された。

### 池田牧場の思い

池田牧場は、防府市牟礼のこの場所で長く酪農業を行ってきた。時が経つにつれ、周辺は住宅地へと変わってゆき、住宅地の中で酪農を行うことの難しさに直面することとなる。これまでも、池田氏には牧場を住宅地から離れた場所へ移転するようにとの勧めもあったが、池田氏は「街の中で地域の住民に理解されながら牛乳生産を続けたい」という強い思いがあった。池田氏が食と緑の県民フォーラムで、「循環社会に貢献する食と緑づくり」をテーマとする第4調査グループに加わり、自らの牧場を積極的に調査・研究に提供してきたのもこの強い思いからである。池田氏のこの思いは、周辺地域の人々に理解され、生ごみ牛糞堆肥づくりでも地域の人々から長きにわたる協力を得ることができた。さらに、地元小学校が信頼を寄せて子どもたちの教育の一翼を託しているのも、池田氏がもつ「地域を自らの牧場を範として循環型社会へと作り上げていきたい」という熱い思いがあるからこそであろう。



### 15年5月 生ゴミのたい肥化実証試験を開始

防府市の畜産農家と近隣の12世帯の消費者が協働し、野菜くずなどの生ゴミを牛ふんに混ぜてたい肥を作る実証試験を開始しました。

防府市畜産農家・池田静枝さんと近隣消費者の方々



環境パートナーによる環境体験学習プログラム



小学校の堆肥置き場で堆肥を混ぜているところ

### 15年11月

#### 農業・環境体験学習プログラムを提案

防府市の畜産農家において牟礼南小学校の教諭と6年生60名が体験学習に参加し、環境パートナーの協力を得て、農業や環境について理解を深めることができました。



各家庭の生ゴミを持ち寄り堆肥に混ぜているところ



堆肥の温度を測定、手をつこんで確認する生徒もいた

### 17年7月～11月

#### 食と緑の子どもフォーラムを開催

牟礼南小学校における体験活動の発表や実践を通じ、県下の小中学校への本取組みの波及を図るため「食と緑の子どもフォーラム」発表会を11月に開催しました。教育や行政、畜産関係者を学校に招き、昨年度、体験学習に取り組んだ6年生と、地域住民と協働で生ごみたい肥による資源循環に取り組む防府市の池田さんの体験発表を行いました。

### 平成17年度

ふるさとのおいしさ につぼんの食  
「ぼくたち わたしたち 農漁業体験隊！ 作文コンテスト」

#### 最優秀賞 作品

「堆肥を使って・・・」

山口県防府市立牟礼南小学校6年  
荒瀬千紘さん



堆肥ができるまでを寸劇で紹介



堆肥に混ぜてはいけないものを発表

堆肥を使って

荒瀬千紘

私が五年生の時、総合的な学習で堆肥を作りました。池田牧場の牛ふん堆肥を分けてもらい、野菜くずなどを混ぜました。堆肥の温度が上がってほしくて、交代で混ぜたりしました。堆肥の温度の変化がすぐ分かるように、グラブにまめたりもしました。温度が上がると、とてもうれしくて堆肥を手で持ったりしました。野菜くずなどを混ぜることでリサイクルにつながり、堆肥はいいことばかりで、一つずつでもくふうすれば、環境だって守れると思います。牛ふん堆肥を作るといふのは、野菜くずなどが発酵して、微生物のはたらきを利用した、自然の力だと思っています。

堆肥作りから一年が経過し、総合的な学習で「こまを作る」となりました。もちろん、畑の土には去年の堆肥を混ぜました。こまは、アフリカのサバンナ原産の野菜で、水やりがほとんど必要はないけど、畑のうねに日光を集めるために、マルチを張ったりしました。ふだん、農業にあまり興味がなかったけれど、だんだん、楽しくなってきました。早く次の作業がしたくてたまりませんでした。そして、早く収穫もしたかったです。しかし、九月に台風がやってきて、大雨と暴風でこまがとても心配でした。こまは水はけが悪く、根がぐさぐさしてしまいます。翌日、みんなで見に来るとほとんどおぼれてしまっていて残念な気持ちでいっぱいでした。農家の方々は台風が一つ来ただけでも大変だということが分かりました。たおれたこまには、支柱を立てて様子を見ることになりました。一度は、ためかなと落ちこんだ時もあったけど、収めるときはすくすくうれしかったです。これも、畑に混ぜた堆肥の力がなと感謝しています。今は、こまを洗って干したりという作業をしています。また、現在の五年生にも堆肥の良さを伝えました。農業とは、難しいものですが、心から楽しいと思えるものでした。